

## テクスチャーアートをしてみよう

### 教科・場面

図工

### 授業・実践のねらい

- ・ヘラや手指で着色をすることができる。(A知識及び技能)
- ・絵の具の特性に気づき、色々な表現を試すことができる。(B思考・判断・表現)
- ・友だちの作品を見ることができる。(C学びに向かう力、人間性等)

### 対象の児童・生徒

小学部5年生

### 教材・教具

紙粘土絵の具（紙粘土を水でゆるめて絵の具で着色したもの）、ラメ、キャンバス、もんじゃ焼き用のヘラ、フォーク

### 工夫したところ

- ・紙粘土を扱いやすく、制作時の動きが分かる固さに調整した。
- ・混ぜてもきれいに仕上がるような組み合わせで色を用意した。

### 授業展開・教材の使い方・実践の内容

#### 第1次：葉っぱモビールを作ろう

導入として、風車を持って回したり、キラキラテープに向かってうちわで風を送ったりして風の面白さを知る活動を行った。葉がひらひらとするイメージからモビールを作ることを伝え、制作に取り組んだ。モビールの台紙に「こんな葉っぱがあったらいいな」のイメージで、ジェルマーカー→紙粘土絵の具→ラメ、フェルト、キラキラテープ等で飾る という流れで進み具合を見ながら順に進行した。

#### 第2次：テクスチャーアートをしてみよう

キャンバスを用意し、5色の紙粘土絵の具とラメを用いて『自由に描く』というテーマで取り組んだ。

#### 第3次：クリスマスケーキを作ろう

『ケーキになあれ』の絵本を用いて取り組んだ。浅い丸形の容器をケーキに見立てて、デコレーションケーキのクリームを紙粘土絵の具で表現し、造花やビーズ、フェルトボール等を飾って制作した。クリームの味を連想しながら取り組めるように、香り見本と共に提示した。

(ココア、バニラオイル、フルーツガムを使用)



### 授業・実践を通じた児童生徒の変容

複数の色をキャンバスの上で混ぜたり、重ねたり、手指で何度も触って感触を楽しみながら着色を進めたりとそれぞれで面白さを見つけて活動する姿が見られた。自分の動きで躍動感のある着色ができることや、選んだ色の混ざり具合や表面の質感を見て楽しめる点で、完成した作品に満足している様子が多く見られた。模様を入れられる意味でフォークも用意していたが、ヘラだけで十分楽しむことができた。